

## 動作と出現

——現代中国語の動趨式が表す二つの意味——

中 根 綾 子\*

## 动作与出现

——现代汉语动趋式的两个语法意义——

中 根 綾 子

### 提要

本文讨论的是动趋式带宾语的两种句法结构“ $V_x + NP + y$ ”及“ $V_{xy} + NP$ ”的语法意义。以往的研究一直是把二句式视为动词带复合趋向补语的结构，从复合趋向补语及宾语的位置关系的角度进行分析。本文认为“ $V_x + NP + y$ ”及“ $V_{xy} + NP$ ”是两个截然不同的动趋式，就此我们将从形式和意义的角度来探讨两种结构的语法意义，指出其不同之处。此外，我们还将讨论“把  $NP + V_{xy}$ ”的结构，并对三种结构加以比较。

关键词：动趋式 宾语 数量词 动作行为句 存现句

### 1. はじめに

現代中国語の動趨式は非場所目的語をとる場合、一般に“拿出一本书来”および“拿出来一本书”に代表されるような二つの語順の異なる構造を有する。両者は人や物の空間移動という動態性事態を叙述する点において等しく同じであるが、実際の運用を見ると、文脈において自由自在に互換可能というものではなく、また使用頻度においても不均等である。このように現代中国語は客観的事実として存在する一つの移動事象に対し異なる二つのタイプの表現形式を擁している。

従来、この問題は方向補語と非場所目的語の位置という観点から論じられてきた。その成果として、両者の統語上の特徴についてはすでにおおよその整理がなされていると思われる<sup>1)</sup>。ところがその表す意味の違いとなると、未だ統一的な説明はなされていないようである。

本稿はこの二つの構造について、論点を整理し、改めて形式と意味という観点からその文法的意味を検討するものである。この二つの構造を本稿ではそれぞれA式、B式と呼び、次のように一般化する。

- 1) A式： $V_x + NP + y$
- 2) B式： $V_{xy} + NP$

### 2. 先行研究の再検討

#### 2.1 問題の所在

---

キーワード：動趨式、目的語、数量詞、動作文、存現文

\*平成17年度生 比較社会文化学専攻

先行研究はA式およびB式を一律に動詞が複合方向補語を伴う形式と見なし、主に受事目的語がいずれに配置されるかによりいかなる差異が生じているのかという観点から分析を進めている。しかし両者の差異を根本から理解するためには、これでは不十分であろう。A式およびB式が存現目的語を伴う場合の考察が欠落しているからである。本稿は目的語が受事目的語であるのか存現目的語であるのかにより、両者をさらに二つの下位類型に分類する。

- 3) A - i 類:  $V_x + NP + y$  (“拿出一本书来”)
- 4) A - ii 類:  $V_x + NuM + NP + y$  (“跑进一个人来”)
- 5) B - i 類:  $V_{xy} + NuM + NP$  (“拿出来一本书”)
- 6) B - ii 類:  $V_{xy} + NuM + NP$  (“跑进来一个人”)

i類は受事目的語である。動作主による動作行為を表す文を仮に動作文と呼ぶならば、i類は動作文である。ただし受事目的語の統語的性質はA式とB式で異なる(後述2.3節)。ii類は存現目的語で出現文を構成する。A式B式ともに存現目的語の位置に現れるのは原則として数量詞(NuM)の付加された名詞(「数量詞付加名詞」)である。

使用頻度という観点から見れば、A式においてi類はii類より頻出し、A式の典型はi類動作文であると考えられる。B式においてはi類の使用頻度は低く、B式の典型はii類出現文であると考えられる。このようにA式およびB式はそもそも全く異なる性質の文であり、両者の意味を考える場合これを前提として考察を進めるべきである。両者は同様に動詞が複合方向補語を伴う構造ではなく、相互に独立した二つの表現形式であると捉えることが重要である。

## 2.2 命令文の可否が意味するところ

複数の先行研究は、A式は命令文で用いることができるが、B式は命令文で用いることができないということ指摘している。

- 7) 赶快拿出一本书来!
- 8) \*赶快拿出来一本书!

先行研究はこれを根拠の一つとして両者の表す意味の違いをA式は未然または已然を表し、B式は已然を表すと説明してきた。しかしながら、このような説明は対象が命令文である場合には有効であるが、已然の事態を述べる叙述文においてはその違いを明確にすることはできず、両者の根本的な違いを説明しているとはいえない。A式およびB式がi類で用いられた場合に、ともに動作者による動作行為を叙述する文でありながら、命令文となるとB式は不適格になるという現象の原理的意味を再度考察する必要がある。

袁毓林 1991 は、(肯定式)命令文となる動詞のタイプについて、人の動作行為や変化を表す動詞(“述人动词”)かつ動作者がコントロール可能な動詞(“可控动词”)かつ動作者が意志を持って行う動作行為を表す動詞(“自主动词”)であると述べる。これを動詞句に適用し、A式およびB式と命令文との関係について考えてみよう。まず、両者がii類出現文で用いられた場合。出現文は人や物がある場所に出現したことを話し手の立場から叙述するものであるから、上述のコントロール性や自主性という概念とは相容れず、本来命令文とはなり得ない。両者がi類動作文で用いられた場合。A式は上述の条件を満たしているため、命令文となる。一方、B式が命令文を排除するという事実は、上述の条件を満たさず、典型的な動作文ではないことを示唆するものである。

## 2.3 目的語の統語的特殊性

A式およびB式は、目的語の統語的性質は異なる。陆俭明 2002 は、A式は目的語名詞の数量成分の有無は文成立に影響を与えないが(ただし存現目的語はその限りではない)、B式の目的語名詞には数量成分が必要であり、数量詞なくして文は成立しないことを指摘している。

- 9) A - i 類: 拿出一本书来/拿出书来看<sup>2)</sup>
- 10) A - ii 類: 跑进一个人来/\*跑进人来
- 11) B - i 類: 拿出来一本书/\*拿出来书
- 12) B - ii 類: 跑进来一个人/\*跑进来人

A - i 類は目的語名詞について数量詞の有無の制限を持たず、統語的に任意である。文脈にてその必要性を認めれば付加され、そうでなければ付加されない。一方、B 式は i 類 ii 類を問わず目的語名詞には数量詞の付加を義務づける、すなわち統語的にも意味的にも数量詞が必要である。本稿はこのような目的語の特殊性を A 式および B 式の文法的意味を考える重要項目と捉え、これを中心に議論を進めたい。

次章より、A 式および B 式は相互に独立した形式であるという認識を前提とし、動作文と出現文、目的語の特殊性などの論点を軸として、両者の表す文法的意味について考察する。

### 3. A 式の文法的意味

#### 3.1 A - i 類: Vx + NP + y (“拿出一本书来”)

A 式の典型は i 類の動作文である。具体例を見よう。

- 13) 我赤足起来, 从书架上拿了一本歌德诗集来看, 不知何时, 蒙卑睡去——直等第二天微雨的早晨, 马利亚敲门, 送进刮胡子的热水来, 才又醒来。(冰心《关于女人》)
- 14) 我从一倍高的柜台外送上衣服或首饰去, 在侮蔑里接了钱, 再到一样高的柜台上给我久病的父亲去买药。(鲁迅《呐喊》)
- 15) 把手伸进口袋里, 捻了两下, 偷偷摸出一张票来, 捏在手心儿, 走到一个捧着三毛钱, 可怜巴巴地看着别人拼抢的年轻姑娘面前, 悄没声儿地递过去。(陈建功《轱辘把胡同9号》)

A 式が組み込まれた文全体を見ると、同一の主語を共有する複数の動詞句の連鎖形式であり、動作主による動作行為を時系列に列挙して述べる文である<sup>3)</sup>。A 式はこのような文環境においてしばしば用いられ、一連の動作行為の一部の動作行為の叙述を担っている。

A - i 類の目的語には統語上の制約はないため複数のタイプの名詞が表れ、なかでもはだかの名詞が最も多く用いられる。B 式がその目的語にはだかの名詞を排除することとは対象的である。例 13) 14) を見られたい。“刮胡子的热水”(例 13)、“衣服或首饰”(例 14) ははだかの名詞である。一般に、はだかの名詞は現実世界において実体をもたない類概念を表すといわれる。だが、上述の二例は現実世界に存在する実体であり、しかも既出情報に対する照応ではなく場面に新出である。それにもかかわらずこれらの対象物は文において数量詞は付加されず新出情報としての地位を与えられていない。その理由は、この二つの対象物は文脈においては何ら情報価値を持たないという点にある。“刮胡子的热水”を“报纸”に、“衣服或首饰”を“画或书”に変えたとしても、文脈に対し何ら影響を与えない。それらの名詞は動詞と一体となって、それがどのような動作行為であるのかを示すのみなのである<sup>4)</sup>。したがい動作行為による個別の事物の具体的位置変化に対しては何ら関心をもっていない。“刮胡子的热水”を部屋の外から中へ移動させたということをいうものでもなければ、“衣服或首饰”をカウンターの外から内へ移動させたということをいうものでもないのである。

A 式の文法的意味は、物の移動ではなく動作主体による動作行為そのものを叙述することにある。したがい、A 式は「某さんが何をして、何をして…」という動作の連鎖パターンによく現れる<sup>5)</sup>。また、A 式は身体の一部を目的語名詞にとり日常動作を表す“伸出手来”“转过头来”などの例においても頻出する。手や頭がどこかへ移動したことをいうのではなく、そのような動作をしたということに眼目がおかれているのである。

話し手がその対象物を情報価値の高いものとして認識している場合には、目的語名詞に数量詞が付加される。例 15) の“一张票”は文脈において他の何者にも変えることのできない意味上重要な物である。このように A 式において数量詞の有無は話し手の主観的裁量に依拠している。たとえ目的語名詞に数量詞が付加されても、動作主による動作行為を表すことは同様である。

目的語には特定成分を指示する名詞も用いられる。

- 16) “你是谁? 这样无理! 不认不识, 闯进人家屋子, 做出这副轻薄样子来!”(莫言《红高粱》)

また A 式は非現実世界に関わる叙述を妨げず、この点においても出現文を典型とする B 式とは異なっている。

- 17) 我说咱们都别写了, 不如改行当小偷儿。你能写出她心里的一切来吗?(史铁生《插队的故事》)

## 3.2 A - ii 類: Vx + NuM + NP + y (“跑进一个人来”)

A 式は存現目的語を伴い出現文を構成することも可能である。これは A 式の非典型的な用法である。

- 18) 风箱声忽然停歇, 浓烟中便趑趄趑趄地跳出两个人来, 抹眼泪, 喘粗气, 坐在磨盘上, 蹲在院当心, (《插队的故事》)
- 19) 空隙间忽而探进一个戴硬草帽的学生模样的头来, 将一粒瓜子之类似的东西放在嘴里, 下颚向上一磕, 咬开, 退出去了。(鲁迅《彷徨》)
- 20) 朱铁汉立刻说: “你放心, 没那事儿。要是从我思想上冒出一丁点儿不搞社会主义的芽子来, 你不用开除我, 就用这把板斧把我劈成八半, 十六半儿!” (浩然《金光大道》)

A - ii 類は、文脈において新規の人や物を導入する役割を果たしている。そして、その新規の人はそのまま後続文における主語となり動作文を形成するというパターンがしばしば見られる (例 18, 19)。A - ii 類については、後に再度取り上げる。

## 4. B 式の文法的意味

## 4.1 数量詞付加名詞が指示する概念

B 式の目的語は i 類 ii 類にかかわらず、はだかの名詞を排除し数量詞付加名詞のみ有効とする。現代中国語においてははだかの名詞は基本的には現実世界において実体をもたない類概念またはその属性概念を表すことはよく知られている。B 式がこれを排除するのは、その目的語名詞には実体のない抽象概念としての物ではなく、現実世界において具体的に実在する物、すなわち specific (“实指”) な成分を要求するからである。抽象概念は個体としての境界をもたないため、いくら数えようとしても数えることはできないが、具体的な個体は明確な境界をもつため容易に数えることができる。数えることができれば、それは数量詞で表される (沈家煊 1995:369)。数量詞の機能は、話し手がその対象を現実世界に存在している実体であることを認定しているという「存在認定」にある<sup>6)</sup>。

同時に、B 式の目的語名詞は indefinite (“无定”) な成分である。B 式の目的語名詞は名詞に定性を付与する機能を持つ指示詞 “这” および “那” と共起しない (朱德熙 1982:130、张伯江、方梅 1996:104)。

- 21) i 類: \*他拿出来这 (那) 本书。
- 22) ii 類: \*屋里跑进来这 (那) 个人。

また、疑問詞を用いてその人や物を特定して問うこともできない。

- 23) i 類: \*他拿出来哪本书?
- 24) ii 類: \*屋里跑进来哪个人?

数量詞により存在認定された対象は indefinite である<sup>7)</sup>。indefinite な名詞が指示する概念とは、個体として現実世界に存在しているが具体的に特定することはできない未知の何かである。それは量詞に代表される類 - 物質の有する多種多様な属性の中で最も基本的なもの - が具象化しているのみであって、現実存在の必要最低限の証しとしてカタチが示されているにすぎない。中国語の名詞は専用の量詞を持っており、視覚的な形状特徴を代表する量詞によりカテゴリ化されていることはよくいわれる。たとえば “裤子” “鱼” “河” “枪” は、それらが共通して有する「細長い」という形体的特徴を抽象化した “条” という類に一括されているわけであるが、“一条鱼” といえ、その類 (細長いカタチ) を示すことにより、個々の具体的属性は不問にし、まずはそれが現実世界に存在する個体であるということを表しているのである。“一条鱼” が想起させるのは魚の典型であって、種類や大きさや色はわからない。ある新規の物について何かを語るためには、まず非現実世界の抽象概念 (“鱼”) から現実世界の実存概念 (“一条鱼”) への変換操作が必要であるといえるかもしれない。その意味で specific かつ indefinite な名詞とは形体として存在するだけの内容は特定されない未知のものである。

そして重要な点は、話し手がある対象を未知の何かとして存在認定する背景には、それが単に場面に新出であるというだけでなく、話し手が対象に対し高い関心を持っているということである。場面に新出であっても話し手がそれに高い情報価値を認めない場合には数量詞が付加されないことは、前章において観察した通りである<sup>8)</sup>。

## 4.2 B-ii類: Vxy + NuM + NP (“跑进来一个人”)

B式の典型は出現文であり、数量詞付加名詞は存現目的語として機能している。一般に、数量詞付加名詞は文において結果目的語や授受目的語などさまざまに現れるが、なかでも存現目的語は数量詞の存在認定機能をよく發揮させるものである。なぜなら、まさに存在文は当該静態事態が生起していることおよび人や物の存在認定を表す表現形式であり、出現文は当該動態事態が発生しそれに伴い出現した人や物の存在認定を表す表現形式だからである<sup>9)</sup>。このように出現文は存在そのものを取り立てていう形式であり、動作文のように個体の存在を前提としてその動作行為を語るということとは全く異なる。

存在を語るということは話し手が対象そのものに非常に高い関心を払っていることの現れである。

- 25) 记得是一九七五年初冬的一天上午，慕樱懒洋洋地应付着门诊，当她叫到齐壮思这个名字以后，从门外走进来一个人——她第一眼看到他，便不由眼睛一亮。(刘心武《钟鼓楼》)

“走进来一个人”に後続する文を見られたい。“她”が“一个人”を興味の眼差しで見つめている叙述から、“一个人”に対する高い関心が見て取れる。

遭遇した未知の対象に対する高い関心は、往々にして「それは何だろう？」という心情を生み、それが何者であるのか知りたいという欲求につながっていく。そのような話し手の心情は、対象の持つ個別具体的な属性を明らかにしようとする特定化作業に表れる。

- 26) 随随循声望去，见山洼洼里走上来个女子，穿的崭新的一双红条绒鞋。是英娥。随随认得英娥，英娥认不得随随。(《插队的故事》)
- 27) 从司机身后跑过来一个拿着手电筒的人，他穿着一件破旧的军大衣，一双桦树皮做的靴子，瘦瘦的长脸上戴着一副小眼镜，一见我们这个车和这些人，他前额头上全成了皱纹，但脸上布满笑容。(王蒙《鹰谷》)
- 28) 那边走过来一群男男女女，有的抬着柜子，有的扛着包裹，还有的端着盆碗，扛着杈子扫帚；一个个喜眉笑眼，有多大劲儿使多大的劲儿的说呀，笑呀，好象庆祝大胜利的示威游行。(《金光大道》)

話し手の未知の対象の特定化への欲求は、B式の後続における対象物の属性描写表現となって表れている。例26)は、“随随”は女の子の存在を認めたが、その時点では女の子の正体は不明である。誰かと思ひ観察すると真新しい赤い靴を履いている。そして、“英娥”であると特定する。例27)は、車を飛ばしていると突然目の前にちらつく光を発見し、停車したシーンである。懐中電灯を手にした見知らぬ人物が登場し、私はその存在を認め、それは誰だという心境でその人物に注目しその外見の特徴を描写し始めるのである<sup>10)</sup>。このような対象物の特定化作業は、B式が用いられる場面において顕著に現れる<sup>11)</sup>。特定化作業は specific かつ indefinite な名詞の内包する未知性に起因するものであり、出現文に限るものではないが、広く出現文の後続には高い頻度でこのような属性描写が表れることから、出現文の表す意味機能が対象の未知性を活性化させ、このようなパターンが定着していると考えられる<sup>12)</sup>。

一方、後続文で未知の対象物の特定化という方向に働かない場合もある。それは文脈において対象を特定化する必要がない場合であり、むしろその対象物が出現したという事態の生起に注目している場合である。

- 29) 我和李卓打算随便问上两家旅店，然后找个厕所蹲一会，就回去交差。不料我们却走运，有个旅店刚空出来一间两个床位的屋子。“多住几个人行不行？”(《插队的故事》)
- 30) 上游突然漂下来一条淹死的牛，直冲着我的脑袋。我又惊怖，又厌恶，连忙躲过它，朝右边偏了偏。(戴厚英《人啊，人》)
- 31) 倪吾诚等了一会儿，他失望了。忽然这时门响了，跑出来一个孩子，不是倪藻，是倪萍。是他刚才连叫也没有想起叫的倪萍。(王蒙《活动变人形》)

例29)は旅館の部屋を探しているところ幸運にもすぐに空き部屋が見つかったということである。例30)は、上流から小枝でもなくボールでもなく何と死んだ牛が流れてきたということをいっている。例31)はある子供が部屋に入ってきたことをいっているのだが、子供は特定化作業を経ずに一目で“倪萍”であると特定されており、実はその子供は話し手にとって未知ではない。しかしここで、たとえば“倪萍跑出来了”のような文ではなく敢えて出現文を用いているのは、話し手は“倪藻”ではなく“倪萍”が来たという事態の生起に意外性を感じて注目しているからであって、その心情の表出が出現文を選択させたのである。

B式の文法的意味は、移動事態が生起しそれに伴い新規かつ未知の人や物が場面に出現し存在していることを

叙述するものであり、数量詞と協働して人や物の存在を認定する機能を有する。

#### 4.3 B-i類: Vxy + NuM + NP (“拿出来一本书”)

B-i類は使用頻度は低く、B式においては非典型用法である。しかし、B式におけるi類とii類の関係はA式におけるそれと平行ではない。B-i類はii類と同様に目的語に数量詞付加名詞を要求するという事は、B-i類が出現文と統語的にも意味的にも緊密な関係にあることを示唆している。

- 32) 正在这时,有几个熟悉的人影从我的窗前一晃而过,很快燕宁、维娜、谭静、晓梦和妹妹便一起冲进门来。她们带进来一股恐怖的气息。看着她们那苍白的脸色,惊惶的神情,我相信刚才发生的那件事一定十分可怕。(张海迪《轮椅上的梦》)

本例は彼女らが恐怖の雰囲気を選んできたという動作行為をいっているのではなく、話し手は入ってきた彼女たちに恐怖の様子を見取り、後続文からわかるようにそれに対し高い関心を持って注視している。

B-i類の後ろには、数量詞付加名詞が表す未知の対象物の個別属性を観察描写する叙述が続く例が見られる。

- 33) 她坐在机子上,拉过来一方长方体的梳头匣子。梳头匣子漆成紫红色,由于年代久远颜色显得发乌,有的地方变成了褐黑色,有的地方还显露出了麻点。(《活动变人形》)
- 34) 兰香突然冷笑着向我捧过来一样东西。一个小小的塑料夹子。里面装着一张照片,我的原来三口人的照片。(《人啊,人》)

例33)は“一方长方体的梳头匣子”の未知性が活性化し、後続文でその特定化作業が行われている。本例は、彼女が髪結い箱を引き寄せる移動動作をしたということを用いるものではない。髪結い箱は元々その場所に存在していたであろうが、彼女の引き寄せる動作によりはじめて話し手の視野に出現、存在し、新しい関心の対象として捉えられているのである。例34)の後続文にも属性描写表現が見られる。

次に、動作行為の結果そこに現れ存在しているその対象に注目している事例を示す。

- 35) 有人把脸盆洗干净,到伙房打了四五斤饭和一小盆清水茄子,捎回来一棵葱和两瓣野蒜,一小块姜,我说还缺盐,就又有跑去拿来一块,捣碎在纸上放着。(阿城《棋王》)
- 36) 支队长的队伍络绎过桥,他们扑向汽车和鬼子尸体,他们拿走了机枪和步枪、子弹和弹匣、刺刀和刀鞘、皮带和皮靴、钱包和刮胡刀。有几个兵跳下河,抓上来一个躲在桥墩后的活鬼子,抬上了一个死老鬼子。(《红高粱》)

例35)は、誰かが葱、にんにく、生姜を持ってきたのを見て、まだ塩が足りないと判断している。例36)は、兵士たちは“鬼子”はもうみな死んだであろうという前提でその死体を見に行くのだが、意外にも生きている者もいて、その意外性をもって対象の存在を捉えていることを表すためにB式“抓上来一个躲在桥墩后的活鬼子”が選択されている。文の流れを鑑みれば“抓上一个…”といってもよさそうなのである。死んでいる“鬼子”はとくに関心を持って注視する対象ではないため、動作文“抬上了一个死老鬼子”で表現されている。

- 37) 那年,去挑水,挑上来一个什么呀,一个人头呀,扎着大辫子……(《红高粱》)
- 38) 也就是说,这一天,他吃了四顿饭。食堂要是不关门,恐怕他还得去吃第五顿!害得他妈白白去商店转悠了一下午,买回来那么多好菜,预备着给他过生日!(陈建功《丹凤眼》)

例37)はB式を用い目的語を疑問代詞“什么”で表すことにより、聞き手の注意を喚起し、話し手がこれに注目していることを示している。“挑上一个人头来”では、そのような動作を行ったという事実を客観的に述べるのみで、話し手の驚嘆の心境を表すことはできない。例38)は目的語は数量詞付加名詞ではない(“那么多好菜”)が、“那么”という主観的判断描写から、そこに話し手の重点がおかれていることがわかる。

このように、B-i類は主語に動作主をとりその動作主による動作行為を叙述してはいるが動作行為を述べるためのものではなく、またA-i類のように同一主語をとる動詞句の連鎖構造に類出することもない。その視点は受動者である未知の物の存在にあり、B-i類はまさに動態事態の発生とそれに伴う未知の対象の出現と存在という出現文の意味に相当しているといえよう。B-i類は非典型的の出現文なのである。2.2節において、B-i類は命令文となることが不可能であることを根拠に典型的な動作文ではない旨の指摘をしたが、本節の結論はこの妥当性を裏付けている。

#### 4.4 Vxyの意味機能

B-i類は未だ文法上の定型として確立してはおらずイレギュラー的な感が強い。動詞句  $V_{xy}$  は本来後ろに目的語を伴わないが、唯一数量詞付加名詞のみ目的語として容認し、結果、典型出現文だけでなく非典型出現文を生産しているのはなぜだろうか。その理由は  $V_{xy}$  の意味機能にある。

$V_{xy}$  は目的語を伴わない場合（“小王走进来了”“花已经搬上来了”）自動詞的である。目的語を伴う場合は常に出現文を構成し、自動詞的に働き出現義を表す。すなわち  $V_{xy}$  は主要動詞  $V$  の自他の別に関わらず基本的には自動詞として機能し、変化という意味特徴を有している<sup>13)</sup>。したがって  $V_{xy}$  は後ろに受事目的語を伴うことはできないが（“\*拿出来这本书”）、数量詞付加名詞を従えて出現文を構成し、さらには主語が動作主であっても後ろに数量詞付加名詞を用いることで出現文と類似の統語環境を作り出し、B-i類のような非典型的出現文を生み出しているのである<sup>14)</sup>。

#### 4.5 A-ii類とB-ii類

A式を用いた出現文（“屋里跑进来一个人”）およびB式を用いた出現文（“屋里跑进来一个人”）について、両者はともに出現文ではあるが、A式であることとB式であることに由来する違いが認められることを簡単に記しておく。

出現文は原則目的語は数量詞付加名詞でなければならない。しかし、A式出現文の目的語の中にははだかの名詞や特定を表す名詞が用いられる例がいくつか見られる。

39) “唔，唔，你们说什么？我屋子里跑进来人啦？啊，那，你们找吧！来，我帮你们找。”（杨沫《青春之歌》）

40) 看他额头上渗出汗水来，我也绝没胆量说一句“让我来扛一会儿”（《插队的故事》）

41) 当谈起久远的往事的时候，听者和叙述者的脸上都会显出这种迷茫的神色来。（《活动变人形》）

B式出現文は後続文に出現物の属性描写表現が多く見られたが、A式出現文はこのような例は多くはなく、そこで文終止するのであれば、後続文の多くは出現物を主語とする動詞句であるという例がしばしば見られる（例18、19）。A式出現文は、B式出現文に見られる出現物に対する強い関心と注目という色彩は乏しく、関心は新規の動作者を導入して動作文を形成する方へと向かっている。また例18) 19) では動作の様態を表す副詞による修飾も見られ、出現文といえども動作性の要素も強い。また出現文は基本的には話し手の眼前で生じた事態を直接語るものであるから通常は現実世界を表す文で用いられるが、A式出現文は非現実世界の叙述についても用いることができる。

42) 家乡流传着一种说法，说是偷吃未熟的青枣，就会在头上脸上长出一个枣状的鼓包来。也可能这是为了吓唬孩子莫吃生枣吧？（《活动变人形》）

このようにA式出現文は少なからず動作文としての性質も兼ね備えており、A式の典型である動作文を踏襲している。出現文という枠組みから見ると、A式出現文は非典型的である。

### 5. 動趨式の有する二つの視点 (perspective) と事態把握

簡潔に言えば、A式は動作文でありB式は出現文である。両者は、一つの移動事態に対し異なる観点から異なる側面に焦点をあてて表現する二つの形式である。

A式は個体に注目し、スル的な観点から動作主が移動動作を行ったことを叙述するもので、視点は移動動作にある。一方B式は、動作者という個体ではなく事態全体に注目し、ナル的な観点からある新規かつ未知の人や物が場面に出現し存在することを描写するもので、視点は人や物の存在にある。動趨式は人や物の移動事象に対し、スルとナルという二つの事態認識のあり方を基盤として成立する二つの表現形式を備えているのである。両者の使用選択は話し手の文脈における表現意図つまり話し手がどこに視点をおき、どこをクローズアップするかに応じて決定される。大まかに言えば、移動事態において動作の局面を切り取るならばスル的なA式を用い、変化の局面を切り取るならばナル的なB式を用いるのである。また、A式とB式は客観的事実の叙述と主観的現場の描写という点においても対立している。

## 6. おわりに

最後に A 式と B 式を使役性の観点から観察する。動作文である A 式において、動詞句と目的語名詞は「動作－受動者」の関係にあるが、受動者への働きかけという使役の意味は稀薄である。A 式において目的語名詞は動詞句と一体となってどのような動作行為を行ったかを表すものであることはすでに見た。また、出現文である B 式において  $V_{xy}$  は自動詞的に機能した。したがって、もし受動者に対する動作の使役的側面に視点を置いて述べるならば、有標形式の“把”構文の力を借りなければならない(“把书拿出来”)。“把”構文のもつ使役性(処置性)という文法的意味の中に嵌め込まれて、はじめて使役的に使用することが可能となるのである。また、三者の目的語名詞の性質の相違にも注目されたい。A 式の目的語ははだかの名詞が頻出し、B 式は数量詞付加名詞のみ有効とし、“把”構文は特定を表す名詞が用いられる。この相違は三者の使役性の高低に基づいている。三者の意味関係を次にまとめる(「+」はその意味を積極的に示すこと、「-」はその意味が稀薄であることを示す)。

43)  $V_x + NP + y$  : 拿出一本书来 [+動作] [-使役]

44)  $V_{xy} + NP$  : 拿出来一本书 [-動作] [+出現]

45) “把” + NP +  $V_{xy}$  : 把书拿出来 [+動作] [+使役]

## 注

- 1) 张伯江, 方梅 1996、刘月华 1998、贾钰 1998、陆俭明 2002 など参照。
- 2) A 式の目的語名詞が数量成分を伴わない場合には、文は単独では成立することはできない(陆俭明 2002 : 14)。
- 3) このような特徴から、陈前瑞 2003:47 は A 式は話題継続性(“话题启后性”)をもち、同一の話題を展開していく傾向があるという。Kimura1984 : 274 は、A 式は動作の過程を述べる動態アスペクトを表すという。
- 4) これらの考察から、はだかの名詞の機能の一つに実存ではあるが情報価値の低い対象を指示するという用法が挙げられよう。照応用法もこの用法の一つである。
- 5) A 式は目的語がはだかの名詞の場合には単独で成立できない(注 2) のは、単に一つの動作を示すのみでは文の情報価値が低く、情報伝達手段として意味をなさないからである。
- 6) 大河内 1997 : 63 は“一个”のこのような機能を「個体化機能」と呼ぶ。また蔡维天 2005 : 148-149 は、“一”は存在概念と関連し、specific とは意味論的観点からいえば一種の存在の前提(existential presupposition)を表すものであるという。その根拠として、「一」+量詞+名詞」は已然を表す文の目的語で用いられた場合、後ろにそれを主語とする“二线述語”(secondary predicate)をとることができる(“阿 Q 吃过一块臭豆腐, 臭得让人受不了。”)ことを挙げる。蔡論文は数詞の中でも“一”のみに specific な性格を認めているが、実際この場合の数詞に表れる数は“一”に限らない(“阿 Q 吃过三块臭豆腐, 臭得让人受不了。”)。可算的であることが specific であることの大前提である。数量詞の存在認定機能は計数機能と表裏一体であるからである。“前面来了三个人。”は、三人の人が実存することと同時にそれは二人ではなく三人であることを表している。ただし、数量詞付加は人や物の存在認定の必要十分条件ではない。“\*一个人在那边看书。”は非文である。
- 7) 大河内 1997 : 69 は、「一个」+名詞」の指示する概念の一つに specific で indefinite なものを挙げている。
- 8) 古川 1997 : 241 は、「<顕著性>の高い名詞は数量詞限定を要請して有標形式となり、<顕著性>の低い名詞は数量詞限定を拒絶して無標形式」となると説明する。
- 9) 出現文は出現と消失の二つの意味を含むが、本稿では方向動詞“来”“去”に基づくこの意味の違いについてはひとまず言及しない。
- 10) 数量詞付加名詞は本例のように描写性定語を伴う場合もよく見られる。描写性定語は人や物の属性を記すものであるから対象物の具体性は増しているが、このことは対象を特定することとは異なる。対象物が不定で未知であるからこそ具体的な属性を述べる意味があるのであって、もし特定物であればその属性を改めて記すことに伝達上の価値は幾許もない。张伯江, 方梅 1996 : 04 参照。
- 11) 陈前瑞 2003 : 47-48 は、B 式は新出情報を導入し、後続文で新出情報に叙述を加える例が比較的多いという統計調査の結果から、B 式は話題転換性(“话题转换性”)をもち、新しい話題を導入する傾向があるという。
- 12) A - i 類が数量詞付加名詞を伴う場合(“拿出一本书来”)、対象物の未知性に起因する特定化作業としての属性描写文が続く例はあまり多くない。ここでの数量詞付加名詞はあくまでも動作行為の受動者としての意味を担うのみであって、未知の出現物として後続文において叙述の対象となることはない。A 式は数量詞付加名詞の未知性を活性化しない。
- 13) 顾阳 1997:21 は、存現動詞は“非宾格动词”(非動作主をとる一項動詞)であり、このような動詞の多くは相応する他動詞から一種の“构词”の方法により作られると述べる。これによれば、“拿出来”は、“拿”という二項をとる他動詞に方向動詞“出来”を付して“ $V_{xy}$ ”とすることにより、動作主の項を排除し自動詞性を獲得したと考えられる。

14) 张伯江, 方梅 1996:100 は、次のような興味深い指摘をしている。現代中国語においては意味が虚化すればするほど語順は固定化する。動趨式の場合、方向義は動趨式のどの語順でも表現可能だが、虚化した意味は特定の語順でしか表せない。虚義の方向詞は前に移動する傾向があり、歴史的には“拿一本书出来”という形式の出現が最も早く、次に“拿出一本书来”、そして“拿出来一本书”が続く。

### 参考文献

- 大河内康憲 1997. 「量詞の個体化機能」, 『中国語の諸相』。東京: 白帝社。
- 古川裕 1997. 「数量詞限定名詞句の認知文法 - 指示事物の<顕著性>と名詞句の<有標性>」, 『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』。東京: 東方書店。
- 蔡维天 2005. 「一, 二, 三」, 『汉语研究的类型学视角』。北京: 北京语言大学出版社。
- 陈前瑞 2003. 「现实相关性与复合趋向补语中的“来”」, 吴福祥・洪波主编『语法化与语法研究(一)』。北京: 商务印书馆。
- 顾阳 1997. 「关于存现结构的理论探讨」, 『现代外语』1997年第3期。
- 郭继懋 1990. 「领主属宾语」, 『中国语文』1990年第1期。
- 贾钰 1998. 「“来/去”作趋向补语时动词宾语的位置」, 『世界汉语教学』1998年第1期。
- 李临定 1986. 『现代汉语句型』。北京: 商务印书馆。
- 刘月华 1998. 『趋向补语通释』。北京: 北京语言文化大学出版社。
- 陆俭明 2002. 「动词后趋向补语和宾语的位置问题」, 『世界汉语教学』2002年第1期。
- 马庆株 1997. 「“V 来/去”与现代汉语动词的主观范畴」, 『语文研究』1997年第3期。
- 沈家煊 1995. 「“有界”与“无界”」, 『中国语文』1995年第5期。
- 沈家煊 1999. 『不对称和标记论』。南昌: 江西教育出版社。
- 袁毓林 1991. 「祈使句式 and 动词的类」, 『中国语文』1991年第1期。
- 张伯江, 方梅 1996. 『汉语功能语法研究』。南昌: 江西教育出版社。
- 朱德熙 1982. 『语法讲义』。北京: 商务印书馆。
- Kimura Hideki 1984. 「On two functions of the directional complements Lai and Qu in Mandarin」, 『Journal of Chinese Linguistics』 vol.12, no.2 June, 1984.

### 付記

本稿は作成にあたり、査読の先生方より有益な助言を多数賜りました。ここに記して、心より感謝申し上げます。

(2007年1月12日受理)